

ARPA・K NEWS LETTER

地域計画 建築研究所

謹賀新年 昭和60年元旦



総合見本市会館（仮称）完成模型〔京都府〕

アルパック ニュースレター もくじ

• アルパックのイノベーションの年に	2
• ごみをめぐる本当の話	8
• きんきよう	
◦ 組織の界をこえた人の輪 - 櫛友会 ^{レキ}	10
◦ 伏見酒蔵コンサートから	11
• 旧刊新刮書評。「本田宗一郎との100時間」	12
• まちかど1	
◦ 商店街の「いこいの空間」	13
• まちかど2	
◦ 高架下を明るく街に	14

NO. **9**

アルパックのイノベーションの年に

三 輪 泰 司

お手紙で、お電話であるいはおこし頂いて、たくさんのご批判、ご叱正を頂戴しありがとうございます。私どもの方は御覧のとおり、あつかましくも「ニュース・レター」などと称して印刷物にしてご無礼をさせて頂いております。ことしもどうかよろしく、おつきあいのほどお願い申し上げます。

ご批判にこたえて

アルパックへの「文句」を期待しましたお願いを申してはありましたが、たくさん頂いて率直なところいささか参っております。所員一同皆様のご批判、ご叱正のころをころとして頑張ります。

昨年7月、「アルパックの長期展望と職能」のテーマで全所研修会をもちました。そのねらいは「アルパックの刷新－イノベーション」にあります。10年後のアルパックはどのようなになっていなければならないのか、そこでひとりひとは、どのようにいなければならないのかを自らに問いかけてみました。ひとづくりを基礎に

私たちはこのテーマを「ひとりひとりのモチベーション（動機）」から追及しようととりくんでおります。シンク・タンク、コンサルタント、建築家といった職能で成り立っている経営体はその職能をもつ人間の意思と能力によって支配し運営されなければならないと考えているからです。

それゆえに、いいわけをお許し願えるなら、これはたいへん手間と時間のかかる事業です。多分「頭脳」にかんしては、かなりの水準にあると自負しておりますものの、ことにあたっ

て的確に判断したり、執拗に追及したり、また組織としての総力を動員するリーダーシップをつかむには実際に体験しないと身につかないものであります。

まづできるところから

ひとつは、天下の動向を身をもってつかむことです。経営的には人間への投資といえます。土曜ゼミ・研修会・調査それに海外研究などの機会とその投資をもっと有効に活かす研究・交流、先端的な情報の流通の密度とスピードをあげます。

ふたつは、それをバックアップするハード・ウェアとソフト・ウェアを整えることです。設備と管理への投資といえます。コンピュータ化につづいて全事務所のフアクシミリ・ネットワーク完成とセクレタリー機能の強化・マニュアルの改良です。

みつつは、これがいちばん大切なことですが、「自由でバイタリテイのアルパック」「真面目でおかたいアルパック」に新しいスマートさを加えてゆきたいと思えます。

「新しい」というのは、かりものの、とってつけたものでなくて、深い教養・広い視野から生みだすものという意味であります。

さて、来年になっていいわけをしないですみますように、今年早々の1月12日（土）全所研修会を持って所員一同ところをあわせてスタートいたします。どうか今年もよろしくお願い申し上げます。

（みわひろし 代表取締役社長）

《京都事務所》

□霜田 稔(常務取締役)

「建築系の計画」と「土木系の計画」と言
い方をすれば、それぞれ、アイデア、計
画・事業をするうえでアクセントのかかり方
がちがうかもしれない。

我々の事務所のメンバーの構成も、建築、
土木、経済・社会の混成であり、中でも建築
系が多い。“10年モノ。”という長いプラン
ニング、そしてコーディネーションの仕事が
多くなってきている現在、なんとか三者の性
格を競争的に統一してゆく集団に成長するこ
とを目指して今年も頑張りたい。

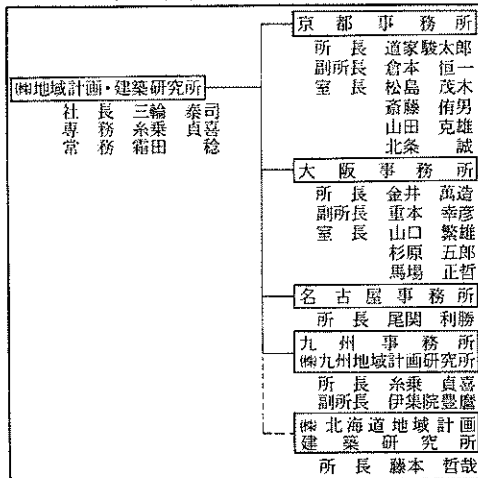
□道家駿太郎(京都事務所所長)

十年ひと昔と言いますが、京都は建都1200
年にあと10年を切って、いよいよ活力ある京
都への大きなターニングポイントを迎えます。

関西文化学術研究都市やサイエンス・シテ
ィー、岡崎文化ゾーンの整備、日本学研究所
第二京阪道路、地下鉄の延伸等々、プロジェ
クトが目白押しに並んでいます。

しかし、ビッグプロジェクトだけでは、ス
プリングボードにはなりません。市民一人一
人の活力の集約の結果としてのビッグプロジ

アルパック組織図



ェクトの完成により、将来、建都1200年の
事業を、京都の重要な転機であったと評価す
ることになると思います。市民のエネルギー
の小さな積重ねにも色々と参画していきたい
と思っています。

□倉本 恒一(京都事務所副所長)

最近、建築界ではポストモダニズムの時代
といわれます。それは単に急速に発展して来
た近代主義に対する反動ということだけでなく、
近代技術を使いながら、その地域の人々の生
活や文化に合った独自の環境をつくり出すこ
とが求められるようになったということだと思
います。それは単体の建築であっても都市
であっても同じことだと思います。

このような時代に我々のやらなければなら
ないことは増々広がり、難しくなって来てい
ます。これからもがんばります。

□松島 茂木(室長)

住宅計画に係る業務は、次の3つの部門に
分かれているようです。④ 住宅問題・住宅
政策、⑤ 住宅需給計画、⑥ 住宅地計画。

今後の展開方向は、次の2点に整理できそ
うです。① 従来、④・⑤⑥という流れは
必ずしも斉合性がとれていませんでしたが、
今後市町村住宅計画等が定着していく中で、
全体としてより計画的、総合的にその斉合が
図られる。② ⑥において、即地的な住宅需
給計画の必要性がますます高まり、企画レベ
ルの方法論の確立と強化が求められる。

今後、住宅経済部門、宅地開発における土
木設計部門の強化をさらに図りながら、住宅
計画に係るあらゆるレベルに即応できる事務
所めざして努力したいと考えています。

□北条 誠(室長)

アルパックに入って11年目を迎えます。
最近とくに仕事を通じて感じていることは、
一施設づくりは小さなまちづくりであると

ということです。「まちづくりとは、よりよい場所づくり、しくみづくりが基本」、また、「心とモノの両面がバランスすることが魅力的なまちづくり」とするなら、我々が取りくんでいる施設づくりは、まちづくりと表裏一体の関係にあり、その役割もまた重要です。

新たな10年の第1歩として、そこに生活する人、地域の歴史、文化、暮し、自然を新鮮な気持ちでみつめながら施設づくり小さなまちづくりに頑張っていきたいと考えています。

□齋藤 侑男(室長)

「ここで何がいきますか。ホテルはいけますかね」「何か企業の参加してもらえような、例えば「科学館」というのはどうでしょうか」「地場産業の生きのびる途は？」こういった話が増えてきました。皆悩んでいるようです。でも、どこかで解決をした人達がい、貴重な先例を見せてくれています。

最近の悩みは、例えば地場産業の先進「大山町の一村一品運動」が決め手にならなくなっていることです。全国で、同じような頑張りが、どんどん生まれているからです。

それでも、今年もまた、少しでも新しく、少しでも面白い話を追いかけて、そうした人達が頑張ってきた様子を、今の仕事に置き直す努力を続けていきたいと思っています。

□山田 克雄(室長)

学際的・業際的という言葉が近年よく聞かれます。去年は、シンポジウムのお手伝いや専門分野から離れた研究会への参加など、多方面の分野の方々との交流により、新しい視点で業務に取り組むことができました。都市から個々の建物に至るまで、今日の経済活動、生活様式の変化と今後の動向は、増々、これを予測し、計画に反映していくことが重要になっていると思います。チーム各員の個性と持ち味を生かし、積極的に新しいチャレンジを行っていききたいと思っています。

《大阪事務所》

□金井 萬造(大阪事務所所長)

昨年を振り返ってみると、業務面では、業務の深い追求とフィージビリティのある計画づくり、新しい商品開発面の弱さを痛感しました。事務所運営では、所内の技術交流、総力をあげたチームプレーによる生産性向上にもう一つ努力が不足していたと思います。

今年は、業務面では、フィージビリティと合意形成のしやすい、わかりやすい計画作りを、事務所運営の面では、個々人の努力が総合され、事務所としての総合力が発揮されるシステム作りをめざしたいと思っています。また、所外の御支援をいただいている方々との連携を強化して、社会に少しでも役立つような努力をしていきたいと思っています。

□重本 幸彦(大阪事務所副所長)

計画と計画書—我々が計画策定の委託を受けた場合、基本的には計画が実行されるような計画をつくれ、と先輩から仕込まれてきた。住民の血税を委託費としてもらう以上、単なる計画書という書類づくりに終らせるなどということであり、また、生きた役に立つ計画をつくるかどうかは、我々コンサルタントの存立や生きがいにかかわる問題である。

計画書ではなく計画を作るには、熱意、事例、統計データなどによる論証、現状のまま推移した場合の予測、タイミングなどを組み合わせて、我々の計画を相手にトランスファー(移転)するよう努める。その意味で、計画トランスファーは「たたかい」でもある。今年も「役に立つ計画」を目指していきたい。

□山口 繁雄(室長)

「都市」と「農山村」は、いわば「コインのウラオモテ」であり、その両方を見ることにより、地域の動きや構造がよく分る。

国土計画においては、「三全総」から「四

全総」の時代を迎え、計画テーマも、「定住圏づくり」から「自立的な圏域づくり」へと発展し、増々「地方の時代」にシフトしている。しかし、「都市」においてはインナーシティー問題、「農山村」では過疎問題の解消に依然として苦慮しており、「自立的な圏域づくり」への道もなかなか大変なようです。

今年も、「都市」と「農山村」それぞれの問題に全力で取り組みたいと思っている。

□馬場 正哲（室長）

まちづくりとしての観光振興で突き当たるのがまちの営みに活力が無いことです。そのための振興であって、どちらが鶏か玉子かになるわけですが、振興の取っ掛けが必要です。

そこで、先進事例をあたると地域に「遊び」があることに気がきます。この「遊び」も経済的相関に支配されていると考えますが、地域の歴史性や特定個人の影響も大きいようです。

地域に「遊び（挑戦、競争、探求、交歓、ふれあい）」を如何に仕掛け、導入して行くのか、人と人との交流や共同にどう結びつけるのが大切なようです。

これは個人レベルでも同じで、私も今年こそ安あがりの「遊び」の実践を試み、文化の遅れを取り戻す必要があるようです。

□杉原 五郎（室長）

84年は、めまぐるしい1年であった。「総合交通体系の実現化策」「沿道総合整備手法」「港湾計画の改訂」「ウォーターフロントの整備」「都市計画道路網の見直し」「観光振興」「地域からみた学研都市のあり方」等々、多くのテーマに取り組んだ。大都市あり都市近郊あり地方ありで、視点、方法論などの面で幾つかの困難に直面し、その克服のために少なくない努力を余儀なくされた。

85年は、①幅広い視点と問題意識 ②創造的な方法論の確立 ③わかりやすさと美しさの追求 ④ゆとりをもった仕事の進め方、

などを目標とし、チームの内外における環境づくりにも努力を傾注していきたい。

《名古屋事務所》

□尾関 利勝（名古屋事務所所長）

最近、各地でイベントが盛んに行われた。かつてのオリンピック、万博をナショナルイベントとすると、近頃はローカルイベントが多い。ポートピア、大阪城博、名古屋城博等は成功を収めた。

こうしたイベント手法は、近頃の新しい傾向というより、近代日本の伝統的手法である。ソフトの時代と言われるのは、この30年くらいの変化にすぎない。大阪の新世界、天王寺公園は博覧会を契機に作られたものだし、名古屋の鶴舞公園もしかりだ。名古屋港では、開港博も開かれている。

ここ当分、市政100周年を迎える自治体が連続してくる。単に時代のエポックを捉えることより、新しい時代を展望した身のある夢を打ち出す時だ。歴史から学びながら、まちおこしを考えていきたい。

《株式会社北海道地域計画建築研究所》

□藤本 哲哉（所長）

北海道で6年目の新春を迎えることとなります。昨年を振り返ると、地域のシビアな現実をふまえた研究・計画が多かったようです。NIRAの助成をいただいて「小樽の歴史的環境活用による地域振興の研究」を多くの方々の御指導・御協力をいただき、まとめることができました。

マイナーといわれる北海道経済の中でも、多くの人々の地域づくりの努力が、着実に実りつつあります。我々コンサルタントの業務は、地域のより多くの人々とのコミュニケーションが原点、責任の重大さをかみしめつつ、今年も最大限の努力をいたす所存です。

《(株)九州地域計画研究所》

□糸乗 貞喜(所長)

私どもが九州に事務所を開設して九年目を迎え、多くの方々の御支援により仕事の分野が広がってまいりました。昨年は社名を(株)九州地域計画研究所に改め、所員一同名実ともに心機一転して頑張っております。本年も一層の御支援をいただきたく、よろしく願います。

なお、これまでに行った業務の一端も紹介させていただきます。

□伊集院豊庵(副所長)

営業を担当するようになり、人に会い、話をしてその地域の問題状況を整理して仕事をする。そのためには人と人との結びつきを大切にし、お世話になりながら他人の役に立つプランナーを目指して邁進します。本年もよろしく願います。

□永田伊津夫

私は、52年に地域計画建築研究所に入社し、57年に経営独立、さらに昨年は体制及び社名の変更とこの8年間に3回もの変遷を経験しました。今後は現所員が一致団結し、安定した経営、仕事の質の向上を目指して努力してゆきます。今年もよろしくご指導願います。

□山田 龍雄

入社して以来、田川市の住宅改良事業を中心に、主に基本計画作成の業務を担当してきました。昨年は、県営住宅においてハード面でチャレンジしました。今年は、事業企画に係ることで、多少とも背伸びをしたいと思っております。

□山辺 真一

最近やっと企画ものの仕事が解りかけてきたところで、まだ一つも実現されたものはな

い。今後は、実現できるような企画にして、事業に関わってゆきたい。

□吉村参賀子

去年は決意の年でしたので、今年は何が何でも実行の年にします。総務の仕事をより充実させ、業務に本来の欲を出して、是非担当の仕事を一貫してやりたいと考えています。そして、常になごやかな気持ちでいたいとも思っています。

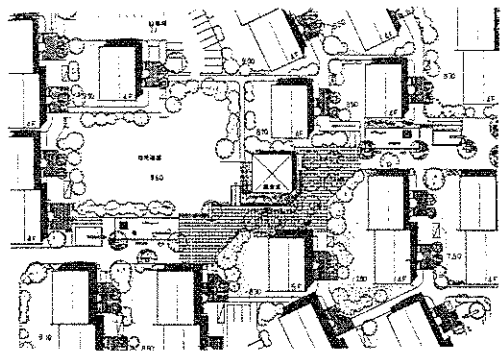
業務紹介

大根土地基本計画

委託者 福岡県住宅課

昭和59年8月～12月

中層4階建を主体とした約250戸の県営住宅の基本計画。住宅地区に囲まれた中で、周辺住宅地との調和と、メイン遊歩道と一体化した遊び場の提案を行った。



大根土地の歩行者専用道路

谷山副都心総合整備構想

委託者 鹿児島市

昭和57年基礎調査

昭和58年基本構想

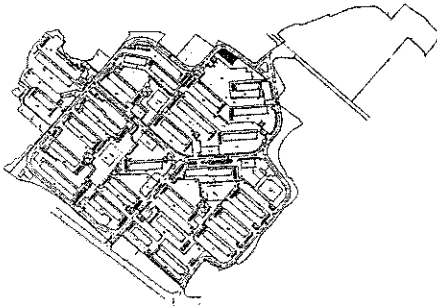
市の南部にある谷山地区が副都心地区として本当に位置づけられるのか、一体副都心とは何なのかということと、現実の可能性として顔づくりはこの位のことはやりましようといった内容です。

田川市炭住地区住宅改良事業基本計画

委託者 田川市

昭和55年～

伊田坑地区に始めて以来、4地区（松原、伊田坑、後藤寺第二、鎮西）の基本計画及び事業計画申請を行い、更に、変更業務を継続している。基本計画から基本設計レベルへの向上を考えている。



伊田坑地区基本計画

ヤード跡地開発計画調査

委託者 国鉄

昭和56年～

現在、世間でも話題になっている国鉄の所有地の中でも、大規模な用地を対象にして、有効利用は一体どういうことが考えられるかという調査で、58年度は北九州市のH地区を対象に行った。

福岡市における住宅需要の解析

委託者 福岡市

昭和59年

この調査は、ダイナミックに動いている住宅事情のもとで、「市営住宅の供給はいかにあるべきか」をテーマにして、福岡市の五期五計策定のための基礎資料の作成を目的としている。

馬出住宅地区改良商業施設基本計画

委託者 福岡市

昭和57年6月～12月計画

昭和58年11月竣工

住宅改良事業区域内にて営業している35店舗の配置計画及び業種構成のレイアウト。歩行者動線に合せた市場型店舗を形成し、路線型店舗のセットバックにより、買物客の安全性を図った。



馬出商店街の改良店舗

福岡市森林組合製材工場基本設計

委託者 福岡市森林組合

昭和59年

新林業構造改善事業の一環として計画され、鉄骨造平家建（一部2階建）、延床面積は約247㎡。「日本一の製材所」をテーマに作業効率を高め、働き易い環境を求めた。色は明るいアイボリーを基調にした。



早良区にある組合直営の製材工場

ごみをめぐる「本当」の話

重 本 幸 彦

「食い倒れ」で繁栄した大阪では、ごみが流れ込むため河口の杭にひっかかって、「杭倒れ」になったというぐらいだから、大量のごみで悩む現代日本はめでたい時代を迎えているかもしれない。

ということで、新年早々ではあるが、ごみにまつわる「本当」の話を少々――。

その1 ごみ減量は財源アップに

日々のごみ処理には補助金は出ず、全て市町村の一般財源でまかなわれている。家庭ごみの処理には、一世帯当たり年間1～2万円かかっている（昭和56年の京都市の定期収集ごみでは、1.6万円/世帯）。10万都市では、3～5億円の一般財源が投入されているはずである。何かの事業を行なう場合は一般に国や府県の補助金がつくので、この一般財源を原資にその3倍程度の事業ができる。義務的経費以外で学校や道路などを建設するための普通建設事業費に充てる一般財源は、10万都市で普通はおおよそ20億円程度と思われるので、家庭ごみ処理にかかる一般財源を、もし何割かでも節減できたら、市町村財政上大変有効である。

ごみ減量の意義は、資源回収、環境問題などが言われているが、実は、財政面での効果が非常に大きいのである。

なお、家庭ごみ処理費のうち、収集・運搬費が3分の2を占める。したがって、費用節減面からは、単に総量の減量だけでなく、ごみの収集・運搬の負荷を減らすことがポイントである。

その2 「分別収集」という神話

東京都でのごみ戦争以来、全国的に家庭ごみの分別収集がはやり出した。中には、ガラス類、金属類をはじめ10項目以上にわたって実施している都市もある。しかし、関西では、あまり、徹底した分別収集をやっている市町村が少ない。

実をいうと、分別収集では、一般収集だけの場合より、収集・運搬費が余分にかかり全体して費用増となるのが通例である。通例の分別収集で対象となっているガラス類、金属類の家庭ごみ中の構成比は、合わせて10%程度（重量比）で、実際の減量効果は5%前後にとどまることが多い。つまり、分別収集によってごみ量はそれほど減らず、逆に費用の大部分を占める収集・運搬の手間が増えるからである。分別収集したガラス類・金属類などは、無償又は売却により回収業者に渡されるが、売却される場合でも果たして分別収集コストが回収されているかどうか。どうも有価物でないから、ごみになっているという当りまえのことがあいまいになっている。

徹底した分別収集は、最終処分地である埋立て地に余力がない、あるいは、焼却工場能力増強や設置ができないためごみの焼却量に制約があるなど、採算を度外視しても対応せざる得ない市町村ではじめて有効なのである。

ごみ減量のためには、分別収集だけでなく、もっと総合的な対策を検討すべきである。例えば、製造・販売・消費（家庭など）の各段



飽食の時代一手をつけずに捨てられた食品（ごみ細組成分調査から）

階を通じて、ごみ量の削減や有害ごみの発生を防ぐ対応（発生源での対策）が検討されるべきである。また、農村地域では、コンポスターなどによる台所ごみの自家処理の効果も大きい。

その3 市町村の固有義務という壁

先に述べた「分別収集は、廃棄物行政にとって必ずしも有効な手段とは限らない」「その減量効果もそれほどでない」といったことは、家庭ごみの細組成分分析結果に基づく我々のシミュレーションで、既に定量的に推定されている。

しかし、こうした対策の効果の事前検討が行われることは、ごみ行政では非常に少ない。私達は、ごみ行政をもっと科学化すべきだと思っているが、ごみの焼却についてはともかく、ごみ問題についての総合的研究は十分でない。

法律では、一般廃棄物処理は市町村の義務とされている。そのためか、清掃事業は多大な費用規模にもかかわらず、廃棄物の総合的研究機関は、市町村機能を合わせ持っている

東京都に置かれている程度である。

ごみ問題の重要性からみて、市町村の壁を越えて、共同で、あるいは府県や国を含めた総合的な研究が望まれる。環境に係わる公害や下水道の例に比べて、廃棄物の研究は立ち遅れているように思われる。

その4 ごみ減量は要員再編が鍵

ごみが仮りに大幅に減量され、財政上効果のある収集・運搬の手間が削減されたとして、一番問題となるのは、ごみ処理に係わる要員の削減である。削減といっても雇用の安定面から、自治体直営の場合は配置転換、民間委託の場合は業種転換が円滑に行われるかどうかである。

都市交通において、市電が廃止できたのも地下鉄などへの要員の転換が同じ交通局内で比較的うまく行われたからではないか。

ごみ問題の検討に当たっては、人員問題まで考える視点が必要である。むしろ、この問題がごみ問題の鍵であるかもしれない。

（しげもとさちひこ 大阪事務所副所長）

組織の界をこえた人の輪—櫟友会

金井萬造

月一回、第四木曜日に楽しく研究会を続けて、98回例会を終えました。本年中に迎える100回記念事業を何にするか考えているところです。

研究会は、10年前にできて、メンバーは30数人で、行政、民間の主な業界にわたっています。転勤の場合は、所属組織から補充していただいています。

研究会の性格ですが、ホットな情報交換とディスカッションが主で、「提言」「企画」「事業化」などの機能を付加したいと思いつつも、会員の方の忙しさ、一部の方の取組みに終わってしまうことを理由にして、この10年間、「情報交換とディスカッション」の旗を守っています。

研究会の開催は、月一回で、8月は夏休み、12月は忘年会をやり、研究会後のグループ行動(親ぼく)と合わせて、人と人との交流を大切にしています。

最近のテーマについての会員意向調査結果

をみると、希望の多いものは、「国際交流・国際協力」「近畿の将来ビジョン」「大規模プロジェクト」「21世紀の産業展望」「イベント」「情報都市」などで、ソフトとハードの両方の希望があり、順次、テーマをとりあげ、講師依頼をしています。最近の傾向は、ソフトなテーマの方が若干、出席率が多いようです。

ついでに、100回記念の企画は、記念シンポジウムや記念冊子など特別な企画を希望しています。

研究会の事務局は、数人で構成し、事務局長の事務所で事務を担当していただき、私も一員に加えていただいています。(事務局：DAN研究所吉野所長)

最近2年間の例会テーマは表のとおりです。

会費は、基礎会費と例会費に分けて徴収していますが、講師謝礼が車代しか出ず、講師の方々に迷惑をかけています。

例会出席は、会員の1/2~1/3でより多く

5 8 年	5 9 年
<ul style="list-style-type: none"> ○ "21世紀の大阪を語る" ○ "大阪21世紀計画" ○ "京阪奈新都市構想" ○ "南太平洋" ○ "ASEANと青年協力隊" ○ "ニューメディアの動向" ○ "これからの情報通信" ○ "市制100周年記念事業" ○ "なにわ外交" ○ "これからの中国" 	<ul style="list-style-type: none"> ○ "迎賓館とT邸見学" ○ "バイオテク最近情報" ○ "21世紀の産業展望" ○ "日韓関係の過去と将来" ○ "ブラジルと累積債務" ○ "ホテルと大阪" ○ "コンベンションと国際交流" ○ "スバルプランの今後" ○ "21世紀と大阪湾の展望"

の方が出席していただけるように、これからもっと努力をせねばと思っています。

最後に、一事務局員として参加させていただいて、今後「情報交換」から「提言集団」化、「企画、事業化—地域おこし—」の研究会へ発展させることができないかと、また、無

理をせず、会員の声を充分聞きながら、ゆっくりと進めていければと考えています。

皆様方の御批評と御助言をいただいて、よりよい研究会にするために努力したいと念願しています。

(かないまんぞう 大阪事務所長)

伏見の酒蔵コンサートから

石 本 幸 良

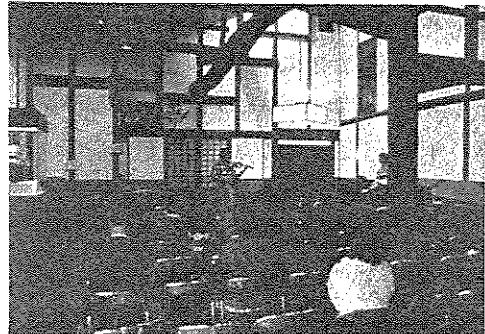
伏見の町には町家と酒蔵に代表される伝統的な町なみが残っています。近年、その酒蔵がマンションやスーパーなどに建て替えられ、伝統的な町なみが変化してきています。

酒蔵は酒をつくるための作業場であり、酒を保存するための倉庫であり、大規模な木造建築でその管理には並々ならぬ努力が続けられています。しかし、酒造業の営業不振が続き、さらにマンションブームが迫車をかけて、酒蔵の消滅のピッチが早まっています。

このような町なみの変化の中で、地元の人々の人々が「伏見のまちづくりを考える会」を組織し、酒づくりを取り巻く環境を再評価し、伏見の町の歴史と伝統を生かした新しいまちづくりを進めるための調査を続けています。

その研究会で、酒蔵再利用の実践として、先日、酒蔵コンサートが開かれました。酒蔵を整備し資料館として再生を図った記念館のロビーで、クラシックとジャズが演奏されました。酒蔵という日頃接することのない空間で、生の演奏に接し、当日訪れた人々は新しい体験を味わいました。通りを歩く人々も酒蔵から流れ出る演奏に足をとめ、耳を傾けていました。酒蔵という大空間の新しい利用法として、まだ小さな取り組みでしたが、一つの可能性は実証されたようです。今後、このような企画が定例化されれば、地元の人々が伏見の町を見直し、又、他所の人々が伏見を訪れるキッカケになるのではと思われます。

(いしもとゆきよし 京都事務所)



コンサート会場風景

旧刊新刊書評

「本田宗一郎との100時間」

城山三郎著 講談社

伊坂善明

黒い制服の高校生たちに向かって、本田は講演を続けた。「諸君、勉強なさい」ここまではいい。「世の中はカンニングの勝手次第です。カンニングのうまいやつほど、成功している」と続いた時には、どんな空気が流れたことだろう。その後、本田は、人に教えてもらうこと、もらえるような人格になること、そして教えてもらうかわりに教えてあげることの大切さを説明している。本田が自動車修理工からピストンリングの会社を設立した時、鋳物の製造がうまくゆかない。「おれは小学校しか出てないんだから」と浜松高工の聴講生になる。それでうまくいったら、こんどはもっと簡単に作るためにと東北大学へ通う。ついでに室蘭製鉄所へ2週間、そうかと思えば北大で4日間、帰りには盛岡の鉄瓶づくりの名工を訪ね、そこで10日間手伝う。「世界のホンダ」もそうした本田の「カンニング」から出発している。

本書は、この本田宗一郎の今日を城山三郎が「密着取材」したレポートである。

本田は、ともかく型破りの経営者である。戦前すでにレーシングマシンを飛行機のエンジンを改造して作り、自らレースに出場。時速160キロをこすスピードを出したところで横から現れた車に激突し、重傷を負ったこともある。創業15周年には、「京都の夜を買いきろう」と8000人の社員が京都中のバーで飲み放題、かかった費用が一億円。

そんな本田の組織論には興味を覚える。ホンダは研究部門を独立会社をしている。トップは本田ひとり。あとはすべて横並び。ここ

までは研究所によくある例。研究員はプロジェクトを自分で申告し（自己申告主義）一人がリーダーとなってチームを作り全責任を負う（一件一人主義）。同一のテーマにむかっていくつかのチームが自由に研究し競い（並行異質競争主義）、一つのものに収斂させてゆく（収斂主義）。ここまできると、他の企業ではあまり見られない。その結果ホンダの車には新しいアイデア・デザインが豊富にある。本田は言う。「うちの車を見てもらえばどこかのまねをした車かどうか一目でわかる。よそのものをまねしたり、出来合いのものを買うほうが楽にやれるかも知れないが、それでは明日がない」

もうひとつ、本田は「学校出は、書類をつくると何かできたような自己暗示にかかる。データとっているだけで、えらいような気がしてくる」という。「うちの効率がこうこうだと半年調べたといって部厚い報告書をよこしたやつがいる。わたしは行ってやった『おまえさん、いちばん効率のわるいことしてくれたな』」

ともかく、ためになる一冊である。

（いさかよしあき 大阪事務所）

編集後記

一昨年7月にNo.0としてスタートし、今号で一年半になりました。何とか手づくりのニュース・レターを続けたいと思って、所員のあちこちに入って仕入れたニュースの原稿だけでやってきました。

今後は外部の人の御意見や、ニュースも入れさせていただき、幅を広げていきたいと思っています。今後も一層努力してまいりますので御愛読下さい。

（いとりのりさだよし）

まちかど 1

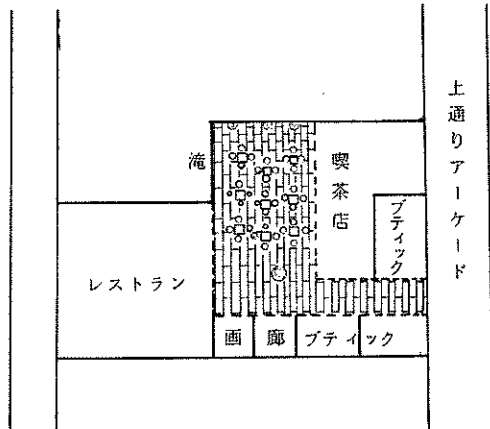
商店街の「いこいの空間」

永田 伊津夫

ここは、熊本市内の繁華街である上通り商店街という熊本城の東の方にあるアーケードの「スイス・ホリデー」という喫茶店を中心とした開放的な一画です。

商店街の中では、ハーモニカ型の店舗になりやすく、個々の店舗がウナギのネドコのようになり、店の奥の方はデッドスペースとなっていることが多い。いっそのこと、中庭にして、緑を生かしたカフェテラスにしたら…というのがこの店です。

まん中の広場を囲んで、ちょっとしゃれたレストラン、喫茶店、ブティックや画廊があります。



ります。この広場には、商店街のアーケード通りから通路によって、だれでも自由に出入りできます。コーヒーを飲みながら、ちょっと絵を見たりして、のんびりと買い物の疲れをいやせそうなところですよ。

我々は、どうしても都心の中では、高容積の建物を計画し、その後で、ムリして空間や広場を取るという考えに陥りがちですが、その街のポテンシャルによっては、むしろ、先に広場を考え、広場を生かすための空間づくりを計画することの方がふさわしい場合もありうることを考えさせられた建物でした。

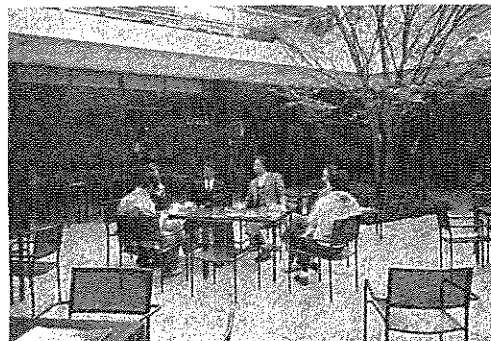
(ながたいつお 九州地域計画研究所)



入口付近から



奥の壁は滝になっている



カフェテラスで休憩

まちかど 2

高架下を明るい街に
 広島県福山市福山駅東側
 国鉄新幹線高架下

糸 乗 貞 喜

高架下というのは、鉄道にしろ高速道路にしろ、なんとなく薄暗い空間で、どこの都市でもてあましている。

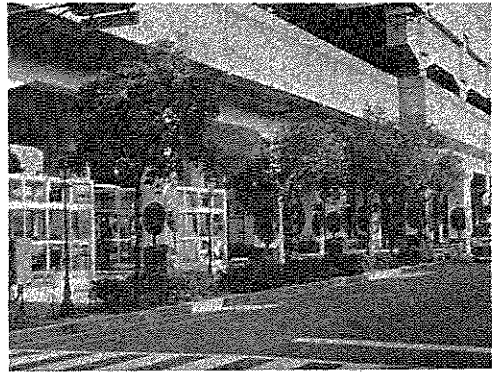
国鉄高架下のオドロオドロしい空間に、郷土にちなむ行事や出来事の絵を描き、明るい場所につくり変えた。しゃれたガス灯もあるし、公衆電話もある。ここで毎日午前9時から午後1時まで“青空市場”が開かれている。青空といっても、高架下であるから高い高い天井はある。

“市”のスペースは高架下を東西約50メートル、幅は支柱4本分で、魚、肉、野菜が売られていて、福山全地域から買い物にやってくる。

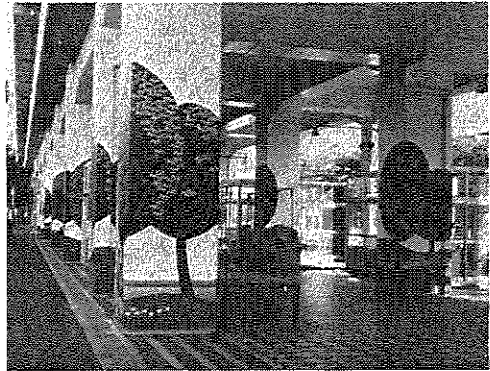
この場所は、国鉄から福山市が借り受け、さらにこの高架下に隣接する大黒町商店街振興組合などに管理委託するという方法で、昭和58年7月にオープンした。

管理している組合では、「単に青空市場としてでなく、広く地域のコミュニティ・エリアとして多目的に活用していきたい」と言っている。(注、この稿については福山大学学生の佐々木浩造さんに取材協力していただきました。)

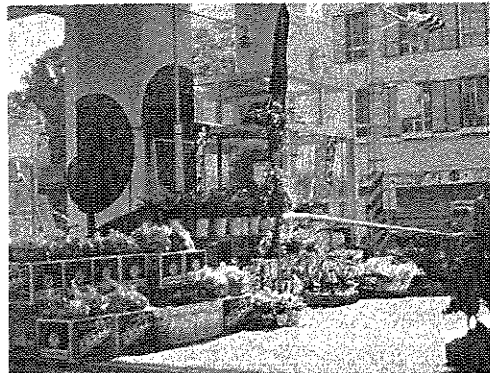
(いとりのさだよし)



ガード下南側



絵の描かれた支柱



“青空市場” 出店風景

ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

- | | | | |
|--|------|---------------------------------------|----------------------|
| 本
都
事
務
所 | ☎600 | 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82
(大和銀行京都ビル8階) | TEL (075)221-5132(代) |
| 大
阪
事
務
所 | ☎540 | 大阪市東区石町1丁目1番地
(天満橋千代田ビル2号館) | TEL (06)942-5732(代) |
| 名
古
屋
事
務
所 | ☎460 | 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号
(ツボウチビル6階) | TEL (052)962-1224 |
| 九
州
地
域
計
画
研
究
所 | ☎810 | 福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル3階 | TEL (092)281-2349 |
| 北
海
道
地
域
計
画
建
築
研
究
所 | ☎047 | 小樽市色内1丁目2番19号 通信浜ビル3階 | TEL (0134)29-1109 |